

はじめに

日韓歴史共同研究委員会は、2001年10月の日韓首脳会談を受けて、日韓両国における日韓関係史の学説・解釈の現状と問題点を共同で調査・研究することを目的とし、2002年5月に設けられた。

古代史を担当する第1分科は、日韓双方3名ずつ計6名の委員で構成され、4世紀から6世紀の日韓関係史における主要な問題をテーマとして、共同で調査・研究することとした。

3年間にわたり計20回の合同分科会を開催した。まず、研究テーマと会議の方向性を定めたのち、各委員が研究発表をおこない、活発な討議を展開した。また、考古学分野のゲストスピーカーを招いて討論をおこなうこともあった。さらに、2回の座談会を開き4・5・6各世紀の日韓関係史をめぐる諸問題およびこれからの古代日韓関係史研究のあり方について論議した。このほかに、研究テーマに深く関わる史料・遺跡について、それぞれ現地の研究者の協力を得て共同調査をおこなった。こうした共同研究・調査を通じた積極的な意見交換により、互いに両国における学説の現状や問題点について理解と認識を深めることができた。

この報告書は、こうした3年間の共同研究の成果として、委員個人の論文と座談会記録、そして活動記録を取りまとめたものである。もとより、日韓の歴史共同研究はまだ緒についたばかりであり、この研究成果もすべての古代日韓関係史をカバーしたものではない。残された課題も多く、それらについてはこれからも日韓両国において共同研究の努力が続けられることを望みたい。

本報告書が、そうした新しい研究の場で多くの人々に活用されることにより、日韓両国における日韓関係史研究がさらに進展し、両国の歴史認識の相互理解がいつそう深まることとなれば幸いである。

2005年3月26日

日韓歴史共同研究委員会

第1分科

日本側委員

石井正敏

濱田耕策

佐藤 信

韓国側委員

金 鉉 球

盧 重 国

金 泰 植